

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【公表番号】特表2003-519668(P2003-519668A)

【公表日】平成15年6月24日(2003.6.24)

【出願番号】特願2001-551504(P2001-551504)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/02	(2006.01)
A 6 1 K	39/04	(2006.01)
A 6 1 K	39/12	(2006.01)
A 6 1 K	39/21	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/02	
A 6 1 K	39/04	
A 6 1 K	39/12	
A 6 1 K	39/21	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	31/18	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 K	37/02	

【手続補正書】

【提出日】平成19年11月19日(2007.11.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】分子に対するCD8⁺細胞傷害性Tリンパ球(CTL)応答を含む免疫応答を個体に誘導するための医薬の製造における、熱ショックタンパク質に結合した分子または熱ショックタンパク質のアデノシントリホスフェート(ATP)結合ドメインまたはその一部に結合した分子の使用。

【請求項2】個体がCD4⁺T細胞の欠損を有する請求項1記載の使用。

【請求項3】熱ショックタンパク質が分子に融合している請求項1記載の使用。

【請求項4】ATP結合ドメインが分子に融合している請求項1記載の使用。

【請求項5】熱ショックタンパク質が分子に共有結合されているか、または化学的に共役されている請求項1記載の使用。

【請求項6】ATP結合ドメインまたはその一部が分子に共有結合されているか、または化学的に共役されている請求項1記載の使用。

【請求項7】分子がタンパク質、糖タンパク質、炭水化物、脂質、細菌抗原、ウイ

ルス抗原、寄生体抗原または癌細胞関連抗原である請求項 1 記載の使用。

【請求項 8】 ウイルス抗原がヒト免疫不全ウイルスの抗原である請求項 7 記載の使用。

【請求項 9】 熱ショックタンパク質、熱ショックタンパク質の ATP 結合ドメインまたはその一部が、マイコバクテリアタンパク質である請求項 1 記載の使用。

【請求項 10】 マイコバクテリアタンパク質が、M. レプレ、M. ボビス、または M. ツベルクローシスタンパク質である請求項 9 記載の使用。

【請求項 11】 热ショックタンパク質、热ショックタンパク質の ATP 結合ドメインまたはその一部が、hsp65、hsp70 または hsp90 である請求項 1 記載の使用。

【請求項 12】 热ショックタンパク質、热ショックタンパク質の ATP 結合ドメイン、またはその一部が、哺乳動物タンパク質である請求項 1 記載の使用。

【請求項 13】 哺乳動物タンパク質がヒトタンパク質である請求項 12 記載の使用。

【請求項 14】 ATP 結合ドメインの一部が約半分の ATP 結合ドメインからなる請求項 1 記載の使用。

【請求項 15】 ATP 結合ドメインの一部が、アミノ酸残基の 1 ~ 50 % が置換された天然の ATP 結合ドメインの一部である請求項 1 記載の使用。

【請求項 16】 置換されたアミノ酸残基の少なくとも半分が、保存的アミノ酸置換である請求項 15 記載の使用。

【請求項 17】 ATP 結合ドメインの一部が、マイコバクテリウム・ツベルクローシス hsp70 のアミノ酸残基 161 ~ 370 を含有してなる請求項 1 記載の使用。

【請求項 18】 個体が後天性免疫不全症候群を有する請求項 2 記載の使用。

【請求項 19】 分子に対する CD4⁺ 非依存性細胞傷害性 T リンパ球応答を個体に誘導するための医薬の製造における、分子に結合した熱ショックタンパク質の ATP 結合ドメインの一部の使用。

【請求項 20】 分子が、タンパク質、ペプチド、糖タンパク質、炭水化物、ウイルス抗原、真菌抗原、または寄生体抗原である請求項 19 記載の使用。

【請求項 21】 热ショックタンパク質が、hsp65、hsp70、hsp90、細菌、マイコバクテリア、真菌、寄生体または哺乳動物の热ショックタンパク質である請求項 19 記載の使用。

【請求項 22】 異種分子に結合した熱ショックタンパク質またはその一部を含有してなる組成物。

【請求項 23】 热ショックタンパク質の一部が、热ショックタンパク質の ATP 結合ドメインの一部である請求項 22 記載の組成物。

【請求項 24】 热ショックタンパク質またはその一部が、異種分子に融合されている請求項 22 記載の組成物。

【請求項 25】 分子が、タンパク質、ペプチド、糖タンパク質、炭水化物、ウイルス抗原、真菌抗原、または寄生体抗原である請求項 22 記載の組成物。

【請求項 26】 热ショックタンパク質が、マイコバクテリアまたは哺乳動物の热ショックタンパク質である請求項 22 記載の組成物。

【請求項 27】 マイコバクテリアの热ショックタンパク質が、マイコバクテリウム・ツベルクローシス、マイコバクテリウム・レプレ、またはマイコバクテリウム・ボビス由来である請求項 26 記載の組成物。

【請求項 28】 ATP 結合ドメインの一部が約半分の ATP 結合ドメインからなる請求項 23 記載の組成物。

【請求項 29】 ATP 結合ドメインの一部が、アミノ酸残基の 1 ~ 50 % が置換された天然の ATP 結合ドメインの一部である請求項 23 記載の組成物。

【請求項 30】 置換されたアミノ酸残基の少なくとも半分が、保存的アミノ酸置換である請求項 29 記載の組成物。

【請求項 31】 ATP 結合ドメインの一部が、マイコバクテリウム・ツベルクローシス hsp70 のアミノ酸残基 161～370 を含有してなる請求項 23 記載の組成物。